

障がい者社会参加に貢献

道精神保健協会から表彰

千寿会千葉理事長と支援センターen

特定医療法人社団千寿会の千葉泰二理事長個人と、同法人が運営する登別市総合相談支援センターen（美園町）が、北海道精神保健協会からそれぞれ表彰を受けた。精神保健福祉の推進と、障がいのある人の社会参加促進の貢献が評価された。

（石川昌希）



表彰を受けた千葉理事長（右）と登別市総合相談支援センターenのスタッフ

同センターは2002年（平成14年）、中登別町に開設された西いぶり地域生活支援センターが前身。04年に美園町の現在地に移転。12年には現名になり、登別市内で障がいのある人たちの就労、社会復帰に向けた各種サービスを展開している。

同センターでは、精神、身体、知的の3障害のある人たちへの相談支援に取り組んでいる。18年度は685人が相談支援を利用した。延べ人数は2037人で、「精神障がい者」が最も多く679人。「知的障がい者」が次いで455人だった。指定障がい児への相談支援も行っている。センター内にはサロンも開設。毎週土曜日の茶話会や月1回の生け花教室などを設けており、安心して暮らせる居場所づくりも心掛けている。

今後、地域生活支援拠点の事業も計画している。親が亡くなった場合などに備えて、日中活動系サービスや放課後等デイサービス、緊急時の医療機関での受け入れなど、障がい児・者を地域全体で支える体制を構築する予定だ。

7日に岩見沢市で行われた第63回精神保健北海道大会の席上で表彰された。30年以上精神科医療に従事している千葉理事長は「地域に住む障がいのある人たちをサポートしてきたことや、市民への啓発・理解を深めたことが評価されたのではないか。地域移行、定着に向けた計画立案を進めていきたい」と話している。